

129期の2年の終わりに示したもののだが、後輩諸君にも活用してもらえと思う。

連絡等を省き、赤字で補足した。

国語も自学自習できるということを理解し、改めて準備を整え、そして何より、実行していったほしい。迷いがあれば、遠慮なく相談すればいい。

3年の国語 学習指針〔保存版〕

2016/3

副読本を活用した学習方法を示す。これを参考に、自分で計画を立て、意欲的に取り組んでもらいたい。「国語、どーしよ」と思っている人もいるだろう。ある先輩の言葉を引く。三年の終わりごろ。

「僕は中学のときから国語という教科が嫌いで、高校の現代文の授業も、苦手で、好きな教科ではないです。高校に入って現代文の問題を解くとき、一年二年のときなんかは、もう、本当にそのまゝの意味で、文章の言っている意味がわからなくて、問題も適当に答えっぽいところをつなげて書いているだけでした。でも、三年になって、さあ、受験やな、ってなって、現代文の問題を解くことが多くなり、現代文に対する見方と考え方がちょっと変わってきました。

僕は、『ちくま』のテキストも、いつも難しくて、いやになってたのですが、あるとき、ふいに、本当にゆっくり、一行一行、どういうことが言いたいのか、理解するようにして、一つの文章に三時間ぐらいかけたことがありました。そのとき、はっきりとではないし、本当にそれが筆者の考えていることか、わからないけれど、だいたいこんなことが言いたいのだろうな、というイメージがつかめて、感動しました。そのとき僕は、今まで、現代文は意味のわからないものだと思っただけで、理解しようとしなかっただけだったんだな、と気づきました。」

ここには、とても大切なことがつぶやかれている。「わからないものだと思っただけで」時点で扉は閉じる。「わかるはずだ」と向き合うことから道は開く。「国語」に限らず。

■評論

Essential Keywords in Contemporary Writings

□『現代文キーワード読解』——これは単語集ではない

「国語、特に、現代文、何やったらいいですか？」という〈よくある質問〉に対する答えの一つがこれ。『現代文キーワード読解』を読め。

評論が読みにくい理由はいくつかあるが、最大の問題は、〈知識〉がないことだ。知っている話は読める。なら本を読めばいい？ 膨大だ！ どうればいい？ 「現キー」を読め、が結論。ここでいう「キーワード」とは、主題を構成するキーワードのことだ。例えば、「近代化」。知ってるね？ しかしそこには、「民主化」「合理化」「個人主義化」「産業化」「資本主義化」「西欧化」…といった多次元の意味合いが含まれている。自覚していましたか？ 「近代」とはいつのことか、いえますか？

「現キー」は、①キーワードを通じて、現代評論文の扱う主題のありかをきれいに整理してくれる、また、②「普遍」「抽象」「逆説」といった、わかったようでよくわからない語の実践的ないいかえをはっきり示してくれる。

▼諸君の持っている『評論文キーワード』でも類似の使い方はできる。ただし、『評キー』には「頻出テーマ編」「読解ツール編」がない。『現キー』が見てみたい人は、先生に申し出よう。

◆使い方——覚えるというより、理解しつつ読む・すみずみまで読む

1 【隅から隅まで読む】「はしがき」「目次」「本書の構成と利用法」をしっかりと読む。

2 【通読】春休みには最低「第1章 基本」「第2章 科学」を読もう。学年初めに力試しをする予定。各章の最初にある総論も含めて、マーカーや傍線を引きつついいいに読み、各語の意味を理解すること。ノートに書き出して整理するのもいい。通読計画を立てよう。

3 【言い換え読み】「入試でキーワードをチェック」という短い文章が例示されている。これをこそ、読む。そのとき、含まれているキーワードを言い換える練習をする。やり方の例を示そう。

▼〔本文〕16 頁「しかし、そのことを根拠にして日本を特殊だと批判するためには、アメリカのやり方が——それだけがとくに普遍だということを、前提にしなければならないだろう。」

ポイント ①キーワードの言い換え ②指示語の言い換え

▽言い換え例「しかし、日本のやり方がアメリカのやり方とちがうことを根拠にして、日本のやり方は日本にしか当てはまらない例外的なものだと批判するためには、アメリカのやり方だけがいつでもどこでも通用するやり方だということを前提にしなければならないだろう。」

例えば、「普遍」を「いつでもどこでもだれでも」と言い換えられる力、これが、評論文を実感をもって理解するための基礎力だ。よくある、「わかりやすく説明せよ」「…とはどういうことか、適切なものを選び」といった設問形式は、漢語やカタカナ語や、独特の言い回しが混じった「評論語」を、中学生でもわかる「ぼくらのことば」に翻訳しなさい、ということなんだ。

4 【読解のポイント】キーワードの意味を参照しつつ、文章の要旨を理解しようと努めよう（他のページのキーワードを見ないといけないこともあるよ）。でも、よくわからないこともあるだろう。そのときは下段の要約・読解のポイント（図解）を読む。ずっとわかりやすくなると思う。自分なりに、わかった、という感覚が持てれば、それでいい。重要なのは、要約・読解のポイント（図解）はそのまま、評論読解のための基礎知識（常識）になっている、という点だ。他の文章でも繰り返し登場する主題を、効率よく学んでしまおう。

5 【主題の学習】主題は、各章最初の総論や「第2部 頻出テーマ編」でも簡潔にまとめられている。例えば、教科書にあった「「である」ことと「する」こと」を読んだ人が、を「近代」の総論や「頻出テーマ編」の「政治論」を読めば、本文を読むための解説になっていることが、よくわかるはずだ。

6 【ハンドブックとして】通読以外に、評論を読むときの座右の書として、適宜参照するといい。例えば、『ちくま』（3年用）の冒頭には「断片化と全体」という文章が載っているが、主題は、『現キー』「科学」の「要素論」「複雑系」と重なっている。また、「フェティシズム」なんていう語も使われているが、これも『現キー』に載ってる。教科書・問題集・模試→『現キー』という方向でも使おう。ぼろぼろになるまで活用してほしい。

□『ちくま評論選』（3年用）——これまでの『入門』編

入試を乗り越え、研究での資料読解に通用する力をつけるため、この30本をやりきろう。センターでも、とんでもなく難解な文章が出る時がある。それでも、『ちくま』30本読み切ったら、どんな文章が来ても怖くなくなる。どんな文章でもなんとかわかるという安心感を手にしよう。

1 【助走1】教科書『精選現代文B』の第一部（第一章）のうち、授業で扱わなかった文章をすべて読もう。テンポよく読んでみよう。ただし、鉛筆を持って。その文章の問いに当たるところと答えに当たるところに印をつけるといい。

2 【助走2】『ちくま評論選』のプロローグ（大江）とエピローグ（保坂）を読もう。ここには、「現代文」の結論があるといっている。課題としての結論という方がいいかもしれない。

3 【週に1題】ノートを用意し、解いていく。脚問を確認しながら、**文章末の「読解」3問**に挑む。3年での授業や定期テスト範囲に取りあげるかもしれないが、それとは別に、自分でやる日を決め、週に1題程度のペースで解き続けていくのがいい。春休みはもっとやってもいい。ただ、詰めてやって、バタンとやらなくなるというのは、まずい。継続命。週1でも夏休みには終わる。

4 【時間をかける／わからないとき】1時間ぐらいいは腰を落ち着けて取り込める環境を確保して。すらすらとはいかないだろう。初めは遠慮なく、「解答編」の【要旨】や【脚問】の答えと解説を読むがいい。また、『現キー』や辞書も使おう。その上で、**文章末の「読解」3問**をやる。それでも、ダメなときもあるだろう。そのときは、「あ。そうか」と思えるまで、解答を読み、本文を読み直す。その上で、解答例をなぞる形でいいから、書く。できるだけ、自分がよくわかる表現にして書こう。

5 【添削／詳細解説】相談があれば、国語担当まで。

▼さらに記述練習したい人のための問題集例：『上級現代文Ⅰ・Ⅱ』（桐原書店）。進路に見本あり。

▼マーク式の演習は、秋の予定。

■古典

▼以下は学校購入の問題集についてだが、自習用に自分で買ったものについても同様に組み込むべし。自分で買うときには、古文については全文の品詞分解のついているものがある。センターの過去問問題集を利用する手もあるが、やはり解説の詳しさを選ぼう。進路室に、尚文出版の過去問題集がある。解説の詳しさではこれが決定版。見に行くといい。

□『力をつける古典 ステップ3』

春休み中に、この一冊を仕上げよう。①初見の文章を、目標時間内でどれだけ読めるか、②知識の穴がどれだけあるか、を見定めよう。1日1題、古漢交互にやるといい。3年最初の古典の時間に提出。「初見」で読める力、のために、ふだんの授業も、〈予習前提〉に転換しなければならない。この問題集は、そのための助走。

1 【どんな話か】話の焦点を、初見で読み取る訓練をメインに。設問に答えられたらいい、という〈拾い読み〉ではムダになる。まったく意味がとれない場合は、解答冊子の、〈訳と品詞分解〉のページを開く。下段に、「要約1」「要約2」…と部分的な要約が載っているから、参照する。それをヒントに再び本文に戻り、なんとか、読み抜いていく。

2 【設問はすべてやる】「読解」設問だけでなく、左右下段の「古典常識」「単語」「文法」「文学史」の設問もフル活用しよう。知識の穴をここで埋めてしまおう！

3 【解説】設問やって、○×つけるだけというのでは何にもならない。強調したいのは、**解説を隅から隅まで読め**、ということだ。解説を読む力と習慣は、受験勉強では決定的に重要だ。解説には、「ポイント」や「今回のおさらい」といったコラムも工夫されている。線を引きつつ、読もう。

4 【間違いノート】ノートを一冊用意して、つまずきのポイントや知識不足を、毎回書き留めておこう。弱点を〈見える化〉し、何を増強すればいいのか、方針をはっきりする。「何をすればいいか」をつかむための、自分にとっての宝物になるはずだ。

5 【別冊学習ワーク】古典文法、漢文句法・用字をまとめて復習するラストチャンス。「別冊」に取り組み、『体系古典文法』『明説漢文』に戻って、知識を整理しよう。古文単語についても、多くの人は、定着していないと思われる。『古文単語333』を復習して、模試に臨もう。

■その他

□漢字

『頻出漢字マスター 3000』を2周したけれど、まったく「マスター」できてる感じがしない。真剣に復習してもらいたい。もう1周する必要があるように思われる。誤字も多い。諸君は、語彙・文法といった知識に弱点があると自覚しなければならない。世間の高校生が「マスター」できているものを「マスター」できていないと気づかなくてはならない。

□小説／読書

小説（の試験問題）に苦手意識がある人は、コンスタントに問題を解き、慣れていくことで払拭されるだろう。嘆くより手を動かせ、だ。ただ、小説に特化した問題集は、ほとんど見たことがない。「センターの過去問題集」や「センター用問題集」の小説の問題に取り組むといい。「解説を読め」という教えは、評論や古典で述べたのと同じ。問題集を選ぶときは、解説のことが自分の頭に入ってくるかどうか、じっくり立ち読みして判断するといい。

※国語の「選択肢式」には、他教科とは違う、原理的な特殊性がある。これについては、またいずれ、説明する。選択肢の差異の見極めについて、今から気にしすぎるのはよくない。それよりも、本文のどこを根拠に「正答」が導かれているのか、その論理をたどる練習をしておこう。

読書は3年でこそ、続けたい。一つは、精神衛生のために。一つは、諸君が、さまざまな分野の知識が統合され、問題意識が芽生える、「開眼」の時期にさしかかるがゆえに。続きが読みたい本が常にあることの幸せ。

□小論文

第一志望校で課される場合は、今すぐ過去問を手元にそろえ、研究しておこう。傾向に合わせた準備をしなければならない。短期間でどうにかなるものではない。センター後にどうしようといわれても、どうにもならない。社会、理科、保体、家庭、芸術などの専門知識が問われるものもある。

課される可能性のある人は、過去問を調べた上で、先生に相談に行くといい。国語科は、資料の読み方、文章の組み立て方の一般論については、助言できる。

■【学習法】まとめのツーポイント

- 覚えるものは覚える。①リスト式で反復習得 ②「間違いノート」にピックアップ
- 解説を読み、それに従って、もう一度解く。自分で解答に至る根拠と論理を説明してみる。